

来年
3月から
算定開始

図2:建設負担金イメージ



図1:新焼却施設の搬入ルート



- 【施設概要】
- 構造：▷工場棟＝地下1階、地上5階建て（高さ約28m）、煙突（高さ59m）▷管理棟＝地上3階建て（高さ約15m）
 - 敷地面積：約1万2400㎡
 - 延床面積：▷工場棟＝約6600㎡▷管理棟＝約1100㎡



新ごみ焼却施設 有明ひまわりセンター 11月試運転開始

柳川市とみやま市が共同で整備を進めている新ごみ焼却施設「有明ひまわりセンター」。いよいよ11月1日から試運転が始まります。試運転といっても、実際に家庭から出るごみを燃やすので、直接搬入する場合は搬入先が変わります。ご注意ください。

【問】市廃棄物対策課 ☎72・1334

よくあるお問い合わせ

Q 10月の休日受付日はいつですか？

A 10月2日（土）、17日（日）です。午前9時から午後0時15分、午後1時から4時に可燃ごみのみ直接搬入ができます。

Q 生ごみがなかなか減りません。減らす良い方法はありませんか？

A 生ごみ処理機の利用をおすすめします。市は、市内の店舗で購入した電動生ごみ処理機などの購入費を予算の範囲内で補助しています。詳しくは、市公式サイトで確認できます。また、同処理機は無料貸出（最大1カ月）を実施中。まずは市クリーン連合会事務局（市生活環境課内 ☎77・8485）へご連絡ください。



▲電動生ごみ処理機

市内の可燃ごみの量



出し方や収集曜日は変わっていません。ただし、ごみの搬入先が変わるので、収集時間が変わることがあります。確実に収集するために、ごみは必ず午前8時までに出してください。

いよいよ来年3月から建設負担金の算定開始

有明ひまわりセンターの建設費は約121億円。そのうち、国の補助金を除いた約85億円は、柳川市とみやま

市で負担します。両市の負担割合は、来年3月から1年間で両市から出される可燃ごみの割合で決まります。昨年度の割合のままいけば、柳川市は約60億円、みやま市は約25億円（図2参照）。柳川市から出る可燃ごみの量が減れば、負担金も減少します。

4月から新ごみ袋だけの運用が始まり、柳川市から出る可燃ごみの量は、前年と比べ7.2%減少。引き続きごみ減量にご協力をお願いします。

シリーズ「ごみ減量をいかにして成功させるか」 特別版

新たな施設は9年前から進めてきたプロジェクト

平成3年に建設された現在稼働している佃町のクリーンセンターは、築30年が経過して施設の老朽化が進んでいます。平成24年、同じく焼却場の老朽化が進んでいたみやま市と共同で、新たな焼却施設の整備を進めることを決定。平成27年に両市で有明生活環境施設組合を設置し、共同で橋本町に整備を進めてきました。11月から実際にごみを燃やす試運転を開始し、来年2月の竣工を目指していきます。

新たな施設は、焼却炉を2炉備えていて、24時間稼働しながら1日で92トンのごみを処理できます。また、ごみを燃やした熱を利用する発電システムを搭載。作った電気は施設内で使用し、余った電力は売電することで二酸化炭素の削減に貢献するなど、環境と人に優しい施設です。

家庭ごみの直接搬入は11月から橋本町の新施設へ

11月1日以降、家庭から出たごみを直接搬入する場合、橋本町の有明ひまわりセン

ごみ収集の曜日は変更なし 午前8時までにごみ出しを

11月から新施設の試運転が始まることにより、ごみの

ターへ搬入してください。搬入前に、9ページ図1の搬入ルートの確認をお願いします。

●搬入できるごみ 草木や布団などの燃やしやすいごみ（可燃ごみ）のみ

●受付日時 月々金曜、午前8時30分～午後0時15分、午後1時～4時

※祝日も受付可

●料金 10kg当たり200円。ただし、指定ごみ袋に入れて持ち込んだ場合は無料

●注意事項 プラスチックや金属製品などの受け入れは不可。畳は1日10枚まで。ベッドなどの家具類は、大きな金属を取り外して搬入。樹木や木材は長さ1.5m以内、直径10cm以内

最新情報は
ごみ分別アプリ
でチェック



ごみ分別アプリ



11月からの問い合わせ先

▶ごみの出し方、収集ルート、回収漏れなど=市廃棄物対策課（☎72・1334）▶可燃ごみの焼却、直接搬入 有明ひまわりセンター（☎75・1766）